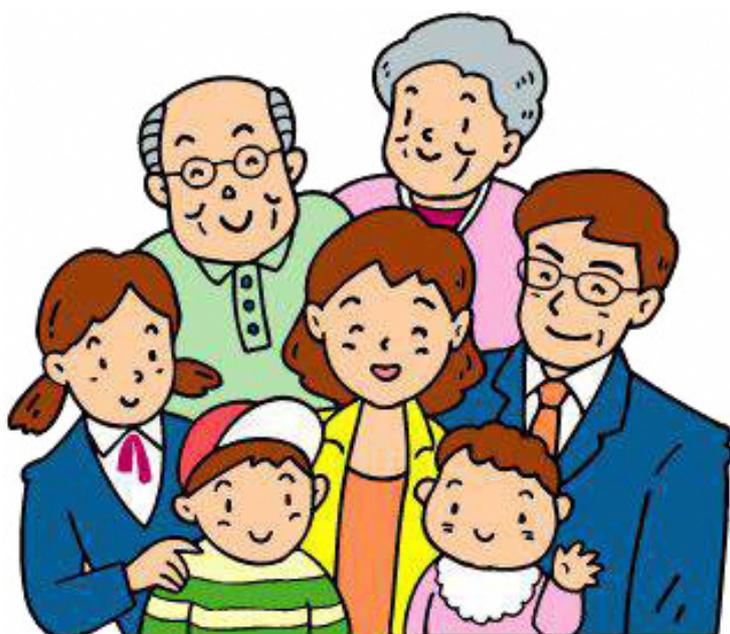


子どもの生活に関するアンケート調査 概要版



平成 29 年 12 月
鹿児島市

目次

1 「子どもの生活に関するアンケート調査」について	1
（1） 調査の目的	1
（2） 調査対象及び回収結果	1
（3） 集計の方法	2
2 調査結果に基づく考察	2
（1） 回答者の状況について	2
（2） 子どもの進学について	3
（3） 家計支出について	3
（4） 家族と過ごす時間について	4
（5） 自己肯定感について	5
3 調査結果	6
（1） 子どもに関する調査	6
（2） 保護者に関する調査	9

1 「子どもの生活に関するアンケート調査」について

（1） 調査の目的

本市における子どもの貧困問題の可視化及び今後の施策に反映する基礎資料とするため、子ども及びその保護者を対象に、生活に関するアンケート調査を実施した。

（2） 調査対象及び回収結果

調査対象：鹿児島市の市立学校の小学5年生・中学2年生の子ども及びその保護者

調査方法：対象者全員に対するアンケート調査を学校配布、学校回収により実施

調査時期：平成 29 年 7 月

実施状況：

	小学5年生		中学2年生	
	子ども	保護者	子ども	保護者
配布数	5,600	5,600	5,297	5,297
有効回収数	4,827	4,855	4,362	4,448
有効回収率	86.2%	86.7%	82.3%	84.0%

(3) 集計の方法

所得類型別にクロス集計を行った。

所得タイプの区分については、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）を算出して区分した。本調査では、問3(1)で「前年(2016年)のおおよその手取り額(ボーナスを含む)」を調査している。ただし、「200～250万円未満」や「400～500万円未満」といった幅のある数値の選択肢を提示して調査したことから、等価可処分所得の算出にあたっては、それぞれの選択肢の上限値と下限値の平均値を可処分所得として取り扱った。平成28年国民生活基礎調査における等価可処分所得の中央値は245万円であることから、下記のとおり所得類型を3つに区分した。

【所得類型における区分の条件】

- ・保護者問2(1)①「世帯員数」及び問3(1)「世帯収入」を回答した者のみを区分

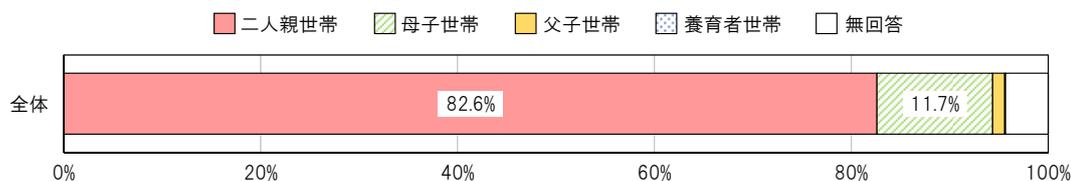
【所得類型別区分】

- ・A類世帯：等価可処分所得が中央値(245万円)の50%(122万円)未満の世帯
- ・B類世帯：等価可処分所得が中央値未満で、中央値の50%以上の世帯
- ・C類世帯：等価可処分所得が中央値以上の世帯

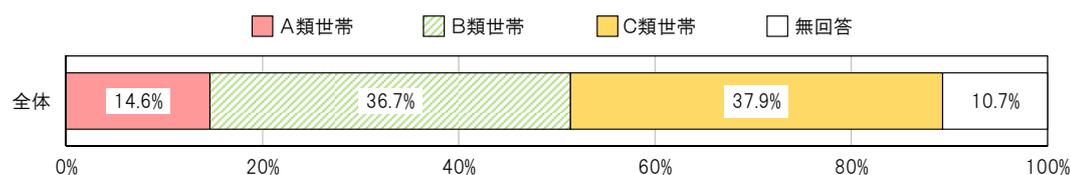
2 調査結果に基づく考察

(1) 回答者の状況について

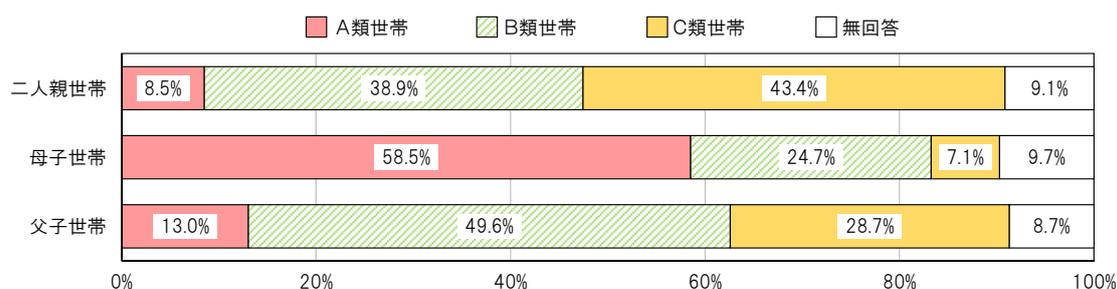
① 回答者の世帯類型別の構成



② 回答者の所得類型別の構成



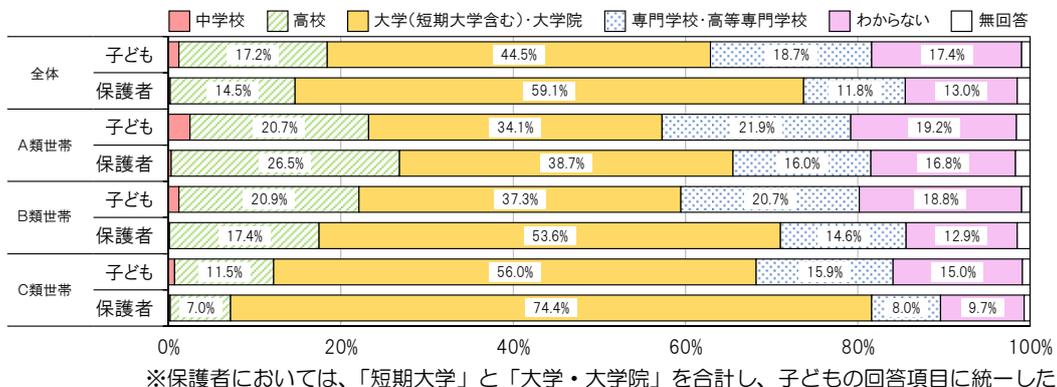
③ 世帯構成ごとの所得類型別の構成



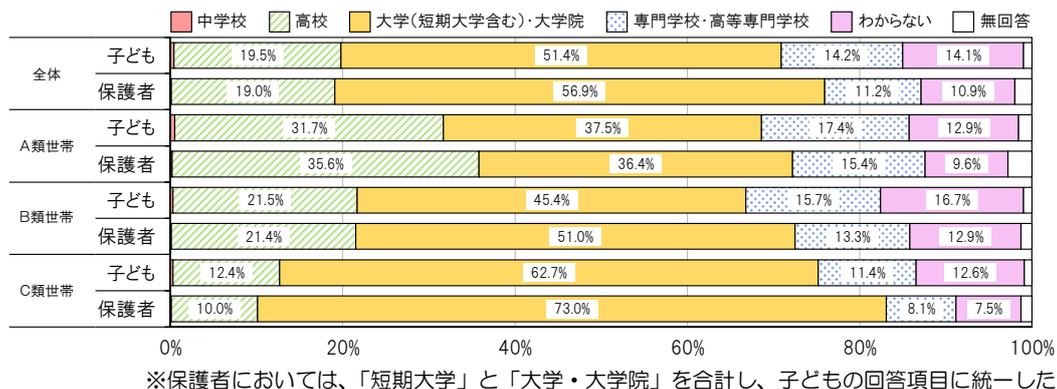
(2) 子どもの進学について

子ども自身が希望する進学先と保護者が望んでいる子どもの進学先を比較した場合、A類世帯では「高校」との回答が子どもに比べ保護者で高くなっており、B類・C類世帯では、「大学（短期大学含む）・大学院」との回答が子どもより保護者で高くなっている。

図表 1 子ども自身が希望する進学先と保護者が望んでいる子どもの進学先（小学5年生）



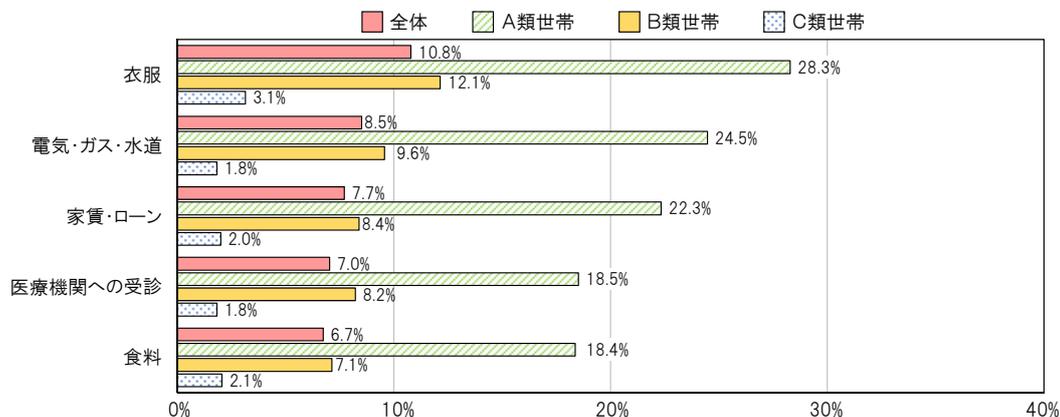
図表 2 子ども自身が希望する進学先と保護者が望んでいる子どもの進学先（中学2年生）



(3) 家計支出について

過去半年間で家計支出が困難であったかを聞いたところ、A類世帯は全ての項目で突出した値となっており、家計支出が厳しい状況をうかがうことができる。一方で、C類世帯は全ての項目で4%以下となっている。

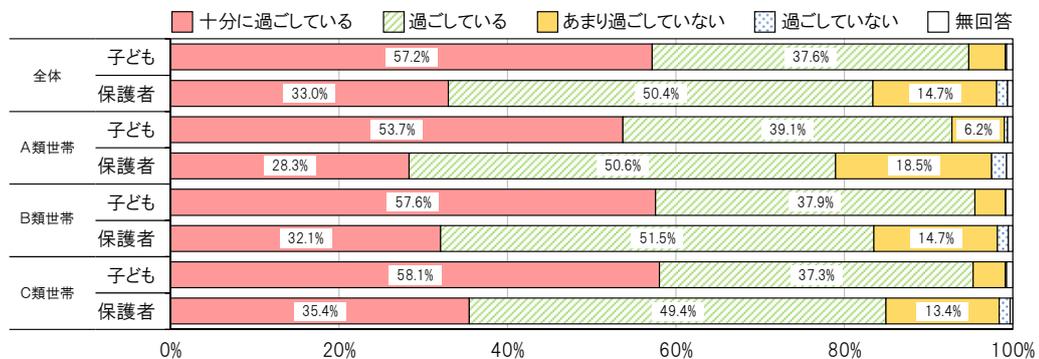
図表 3 過去半年間で家計支出が困難であったもの



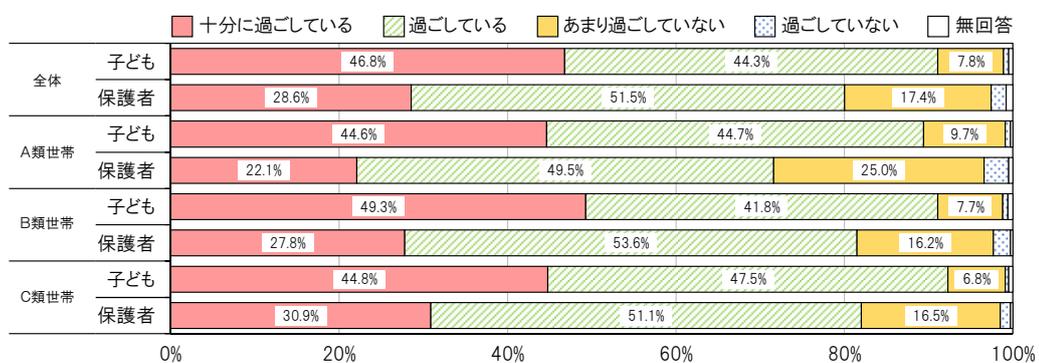
(4) 家族と過ごす時間について

家族と過ごす時間について、どう感じているか子どもと保護者それぞれに聞いたところ、全体で「十分に過ごしている」と回答した割合は、子どもは小学5年生では約6割、中学2年生では約5割となっており、保護者に比べ高くなっている。

図表 4 家族と過ごす時間（小学5年生）

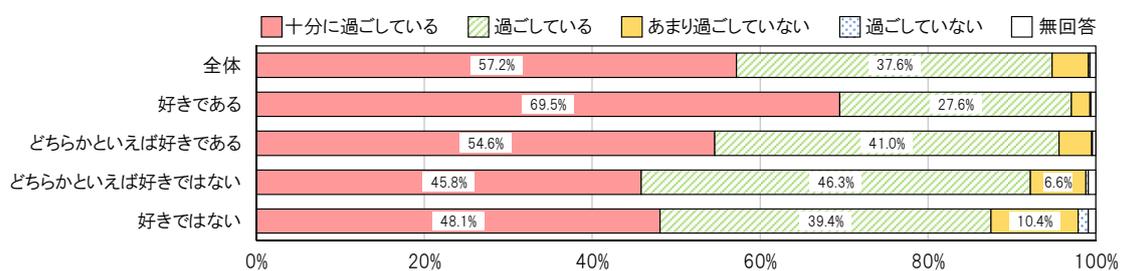


図表 5 家族と過ごす時間（中学2年生）

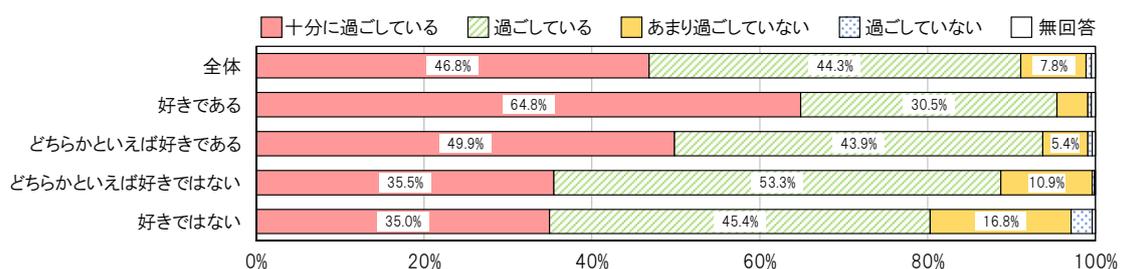


家族と過ごす時間と自己肯定感との関係を見ると、「自分のことが好きか」との設問において、「好きである」との肯定的回答と、「好きではない」との否定的な回答では、「十分に過ごしている」の割合に差異がみられる。

図表 6 家族と過ごす時間×自己肯定感（小学5年生）



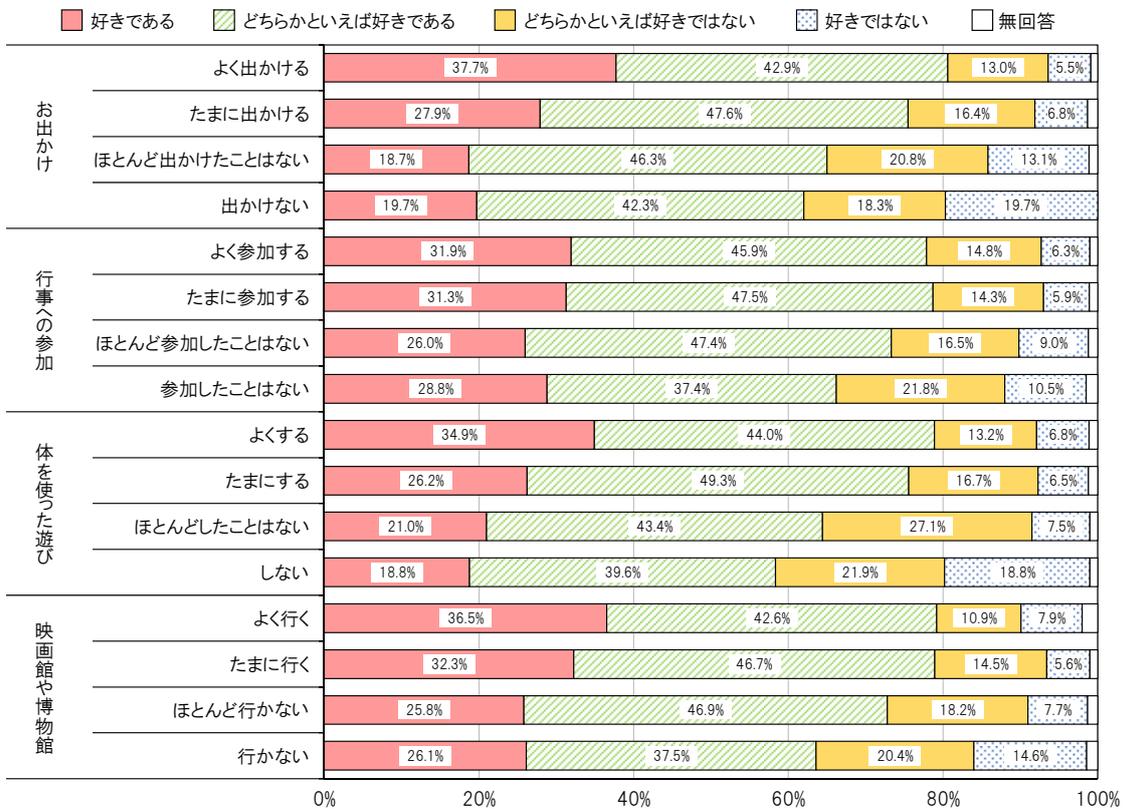
図表 7 家族と過ごす時間×自己肯定感（中学2年生）



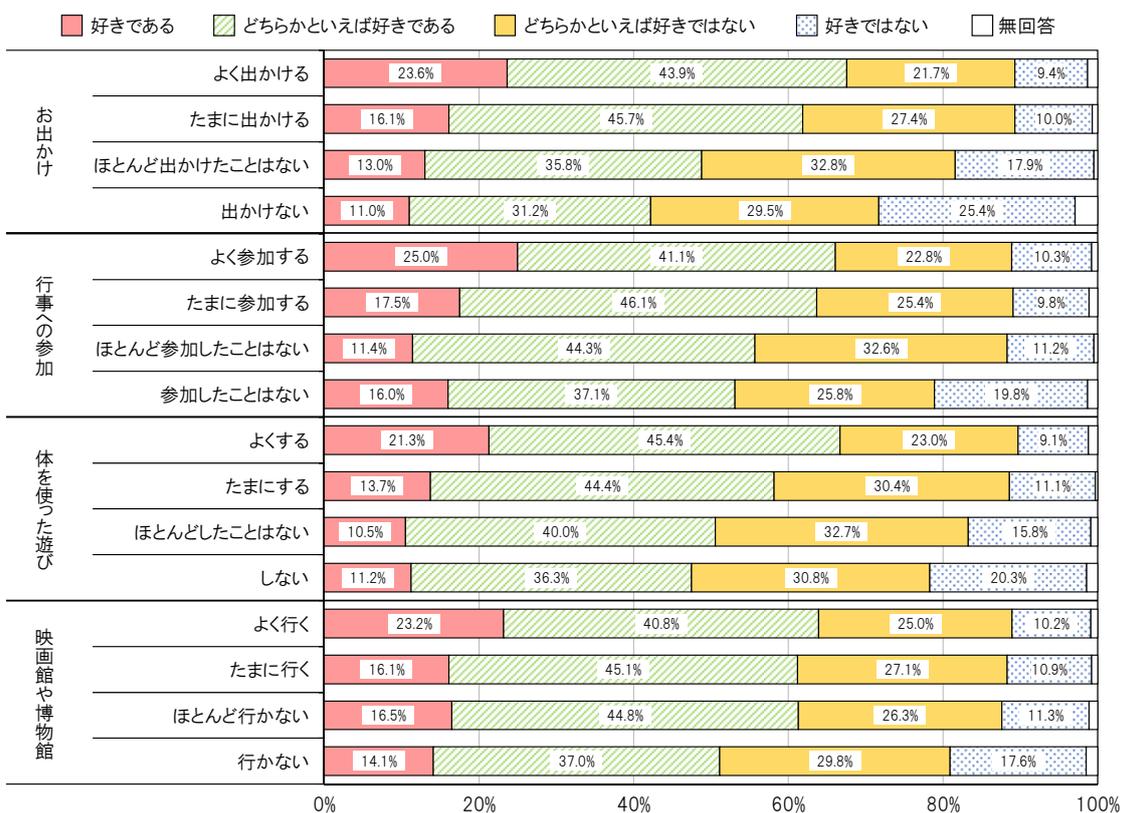
(5) 自己肯定感について

家族との体験・活動の取組状況と子どもの自己肯定感のクロス集計をみた場合、全体的に体験・活動をよくしているとの回答において、自己肯定感が高くなっている。

図表 8 「自分のことが好きか」×体験・活動（小学5年生）



図表 9 「自分のことが好きか」×体験・活動（中学2年生）



3 調査結果

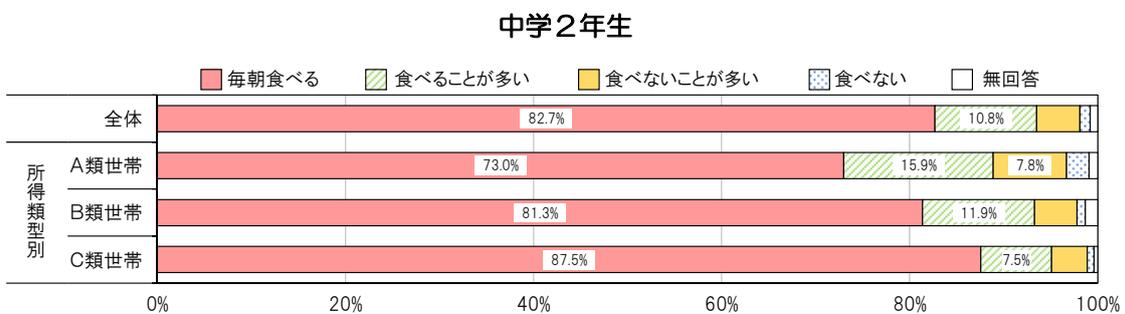
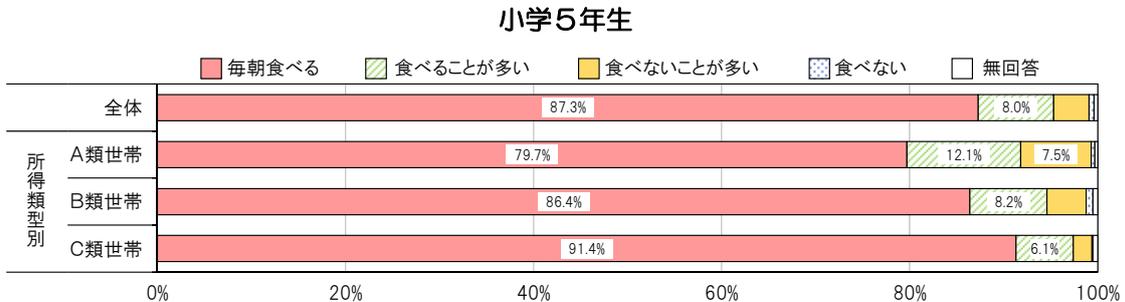
(1) 子どもに関する調査

問3 朝食についておたずねします。

(1) あなたは週にどのくらい、朝食を食べていますか。(SA)

小学5年生・中学2年生とも、「毎朝食べる」+「食べることが多い」が約9割となっている。

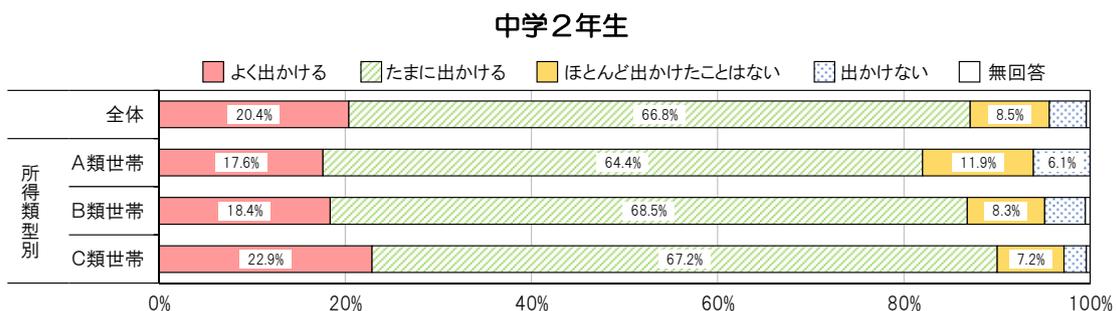
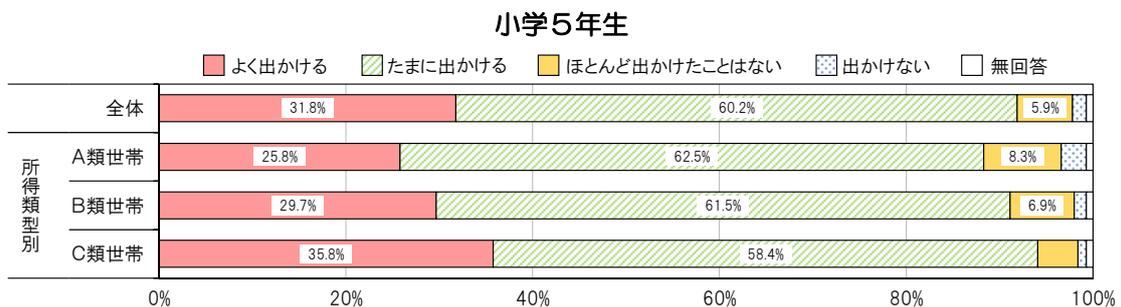
「食べないことが多い」+「食べない」との回答は、小学5年生・中学2年生ともA類世帯で高くなっている。



問8 あなたは、家族の人と一緒に次のことをしていますか。

(1) 家族旅行や日帰りでのお出かけなど (SA)

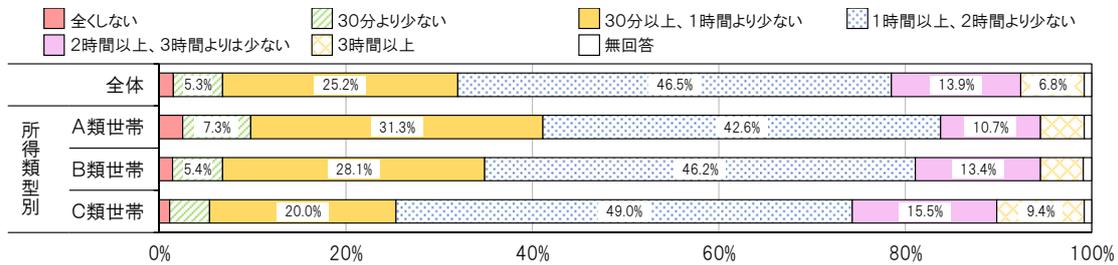
小学5年生・中学2年生とも「よく出かける」+「たまに出かける」が約9割となっており、C類世帯になるにつれて高くなっている。



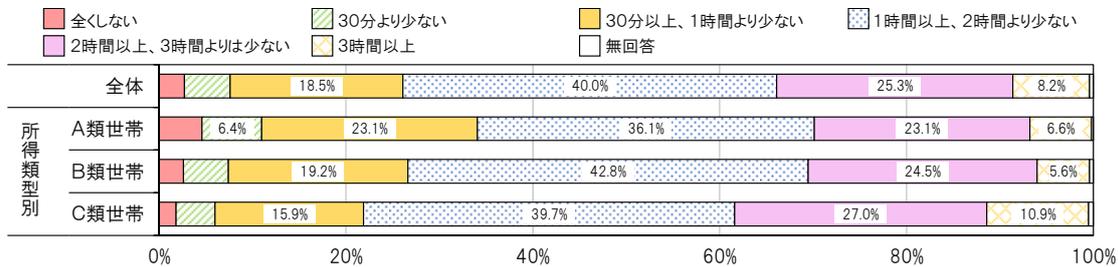
問10 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）学校以外で1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾などの時間も含まれます。）（SA）

小学5年生・中学2年生ともに「1時間以上、2時間より少ない」が最も高くなっているが、A類世帯ほど学習時間の短い割合（「全くしない」＋「30分より少ない」）が高くなっている。

小学5年生



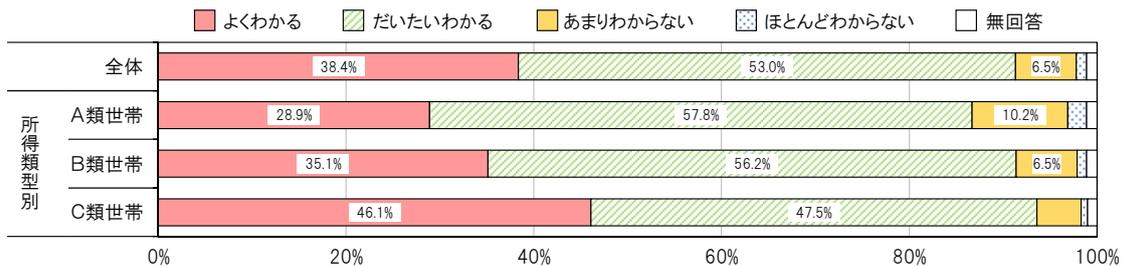
中学2年生



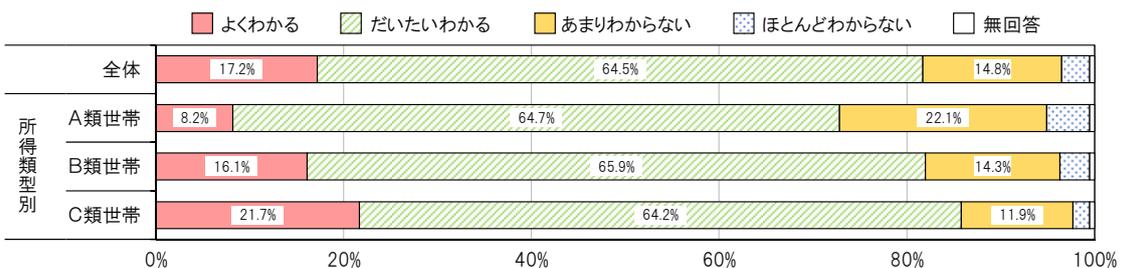
問11 学校の勉強について、あなたの気持ちに近いものはどれですか。（SA）

全体をみると「よくわかる」＋「だいたいわかる」との回答が、小学5年生では9割、中学2年生では8割を超えている。また、C類世帯になるにつれて「よくわかる」との回答が高くなっている。

小学5年生

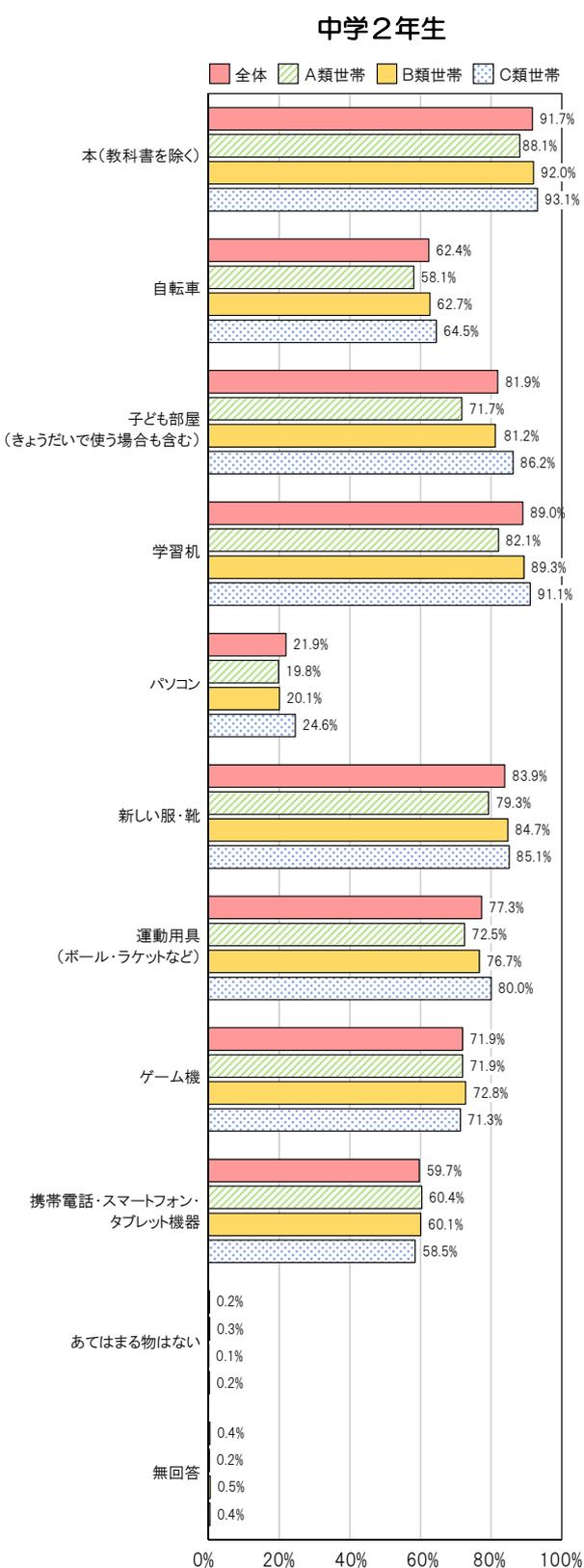
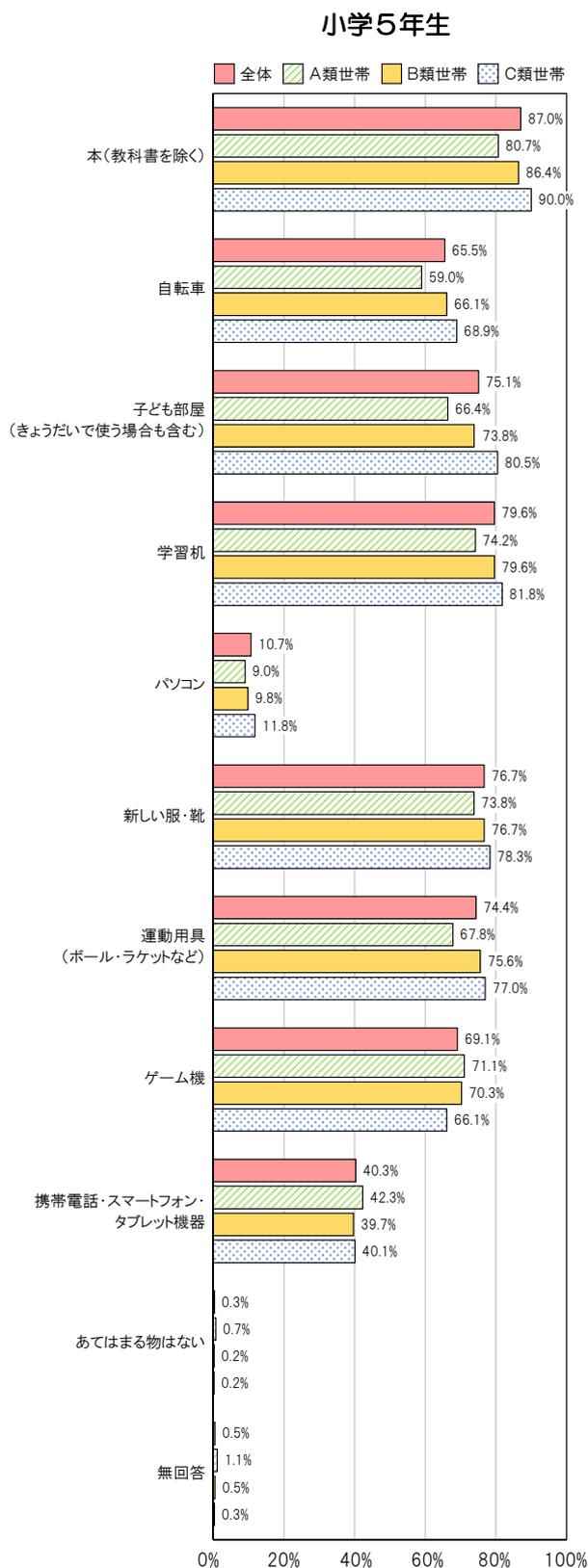


中学2年生



問14 あなたが自分で持っているもの（自由に使うことができるもの）を選んでください。
(MA)

全体的にはC類世帯になるにつれて高い割合となっているが、「ゲーム機」との回答は、小学5年生ではA類世帯で最も高く、中学2年生ではB類世帯、A類世帯の順に高くなっている。また「携帯電話・スマートフォン・タブレット機器」では、小学5年生・中学2年生ともA類世帯で最も高くなっている。



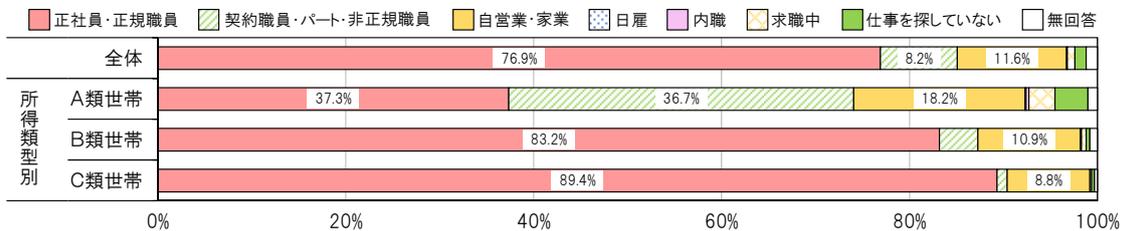
(2) 保護者に関する調査

問6 主な生計維持者の現在の就業状況についてお尋ねします。(SA)

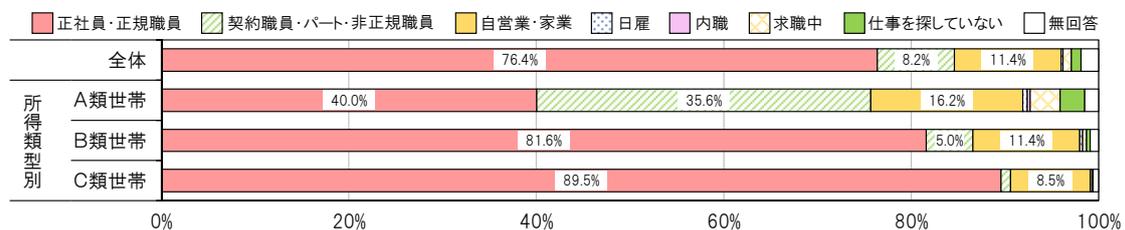
※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事を選んでください。

全体では「正社員・正規職員」が最も高く、約8割となっているが、A類世帯で「契約社員・パート・非正規職員」が高くなっている。

小学5年生保護者



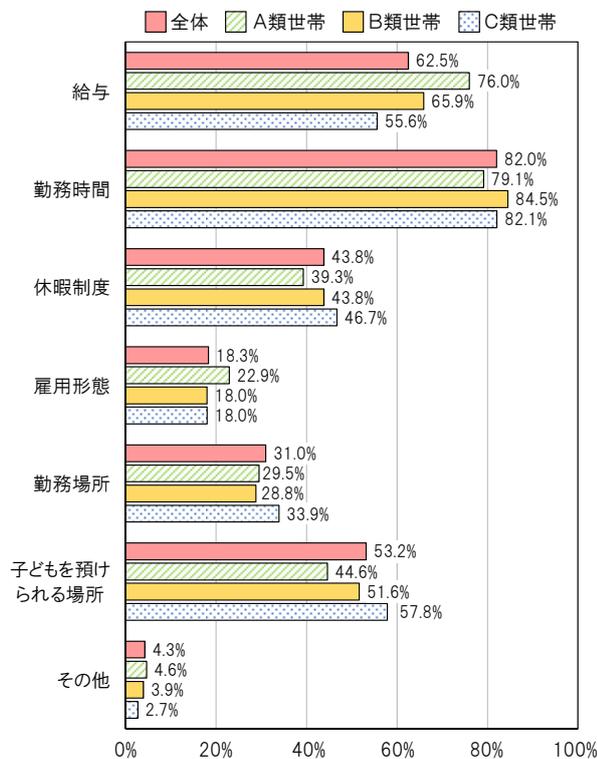
中学2年生保護者



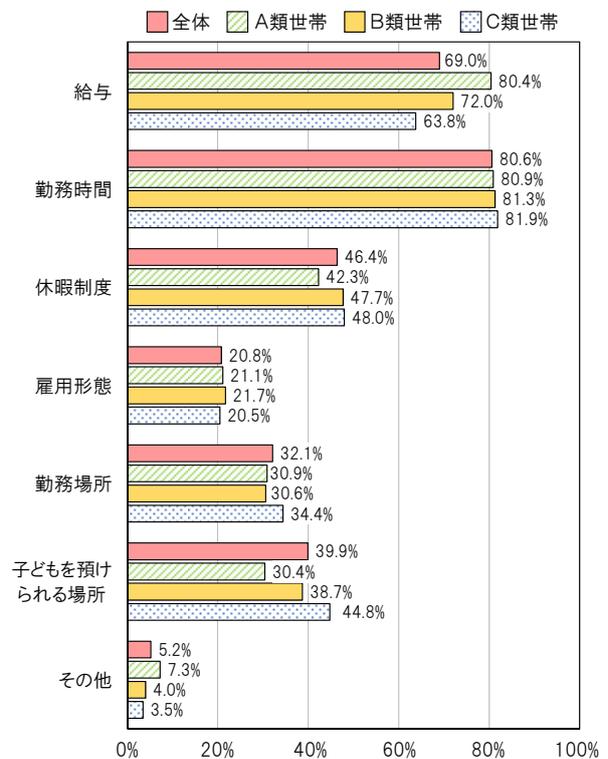
問7 あなたが子育てと仕事を両立するうえで、重要だと思うことは何ですか。(MA)

小学5年生・中学2年生とも、「勤務時間」との回答が最も高くなっている。

小学5年生保護者



中学2年生保護者

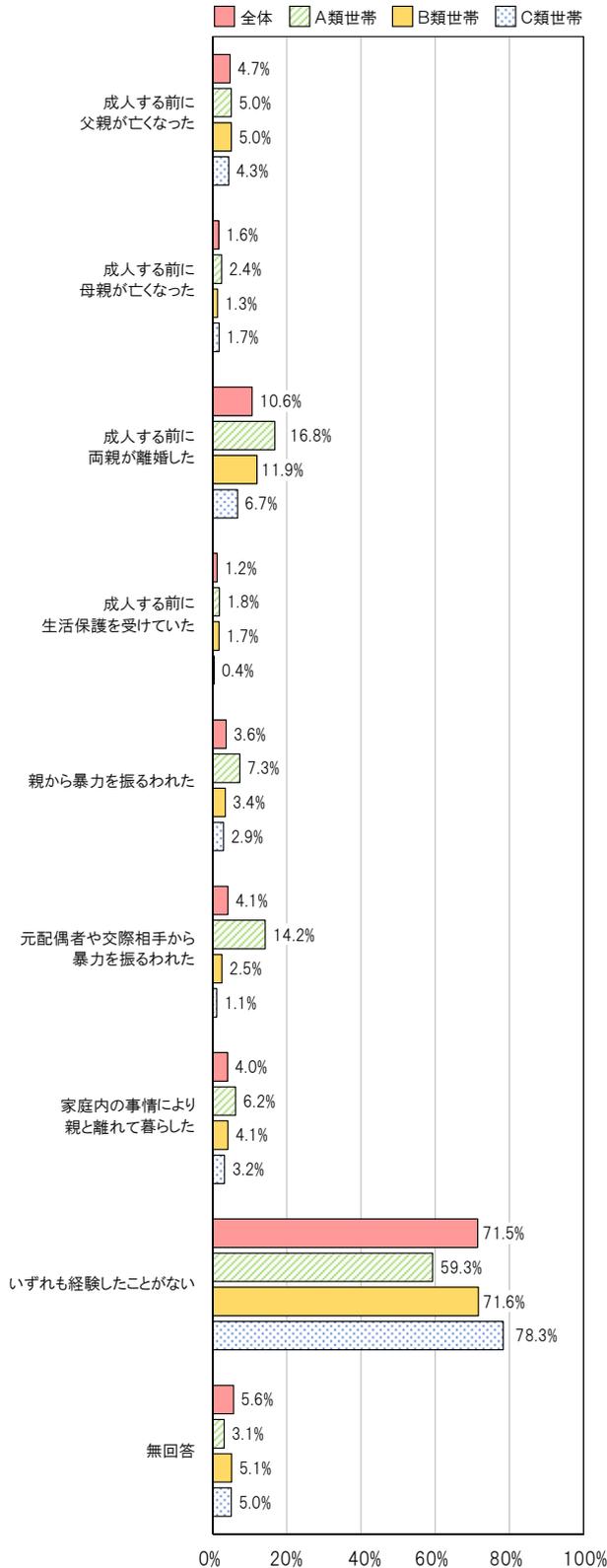


※「子どもを預けられる場所」は「日常的に子どもを預けられる場所」と「急な用事等の場合に、子どもを預けられる場所」の合計、「その他」は「昇任制度」「その他」「無回答」の合計

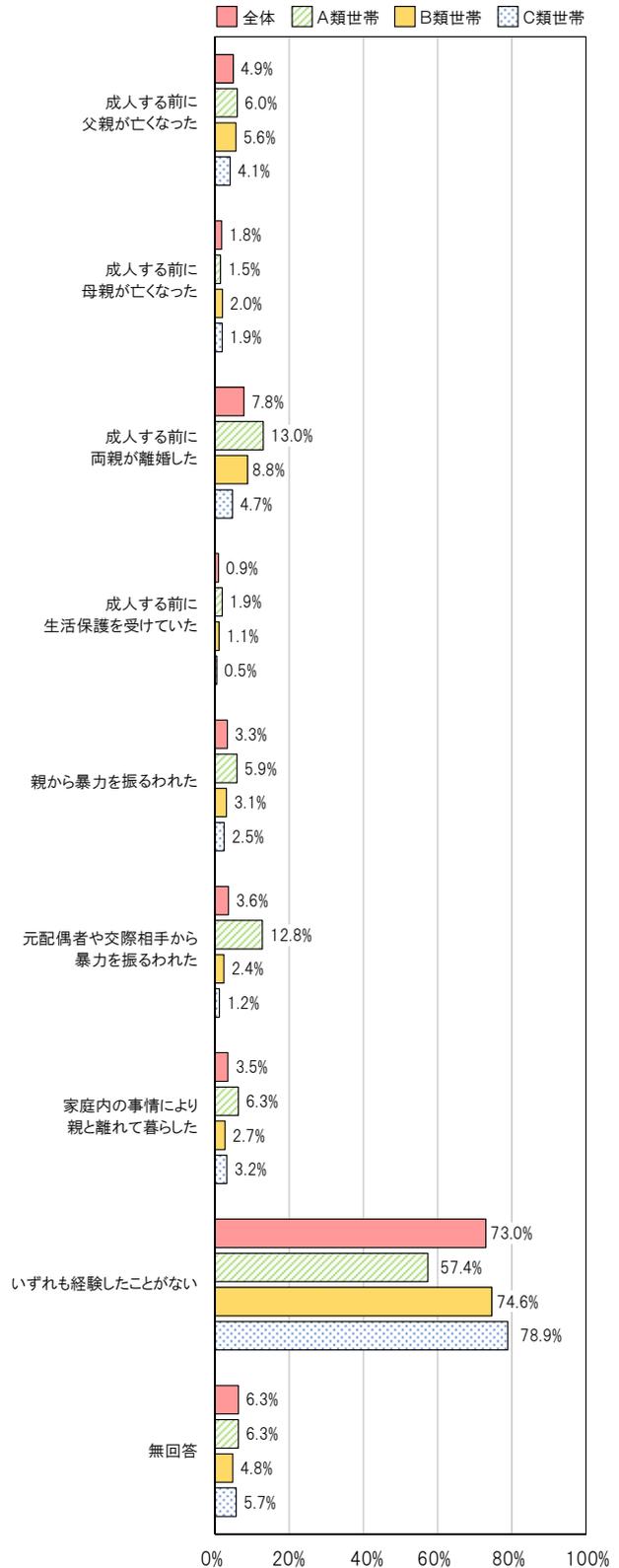
問21 あなた（主な生計維持者）は、これまでに次のような経験をしたことがありますか。
 (MA)

小学5年生・中学2年生とも「いずれも経験したことがない」が最も高くなっているが、A類世帯では「親から暴力を振るわれた」、「元配偶者や交際相手から暴力を振るわれた」との回答が高くなっている。

小学5年生保護者



中学2年生保護者



本調査に関する問い合わせ先

鹿児島市山下町 11-1 鹿児島市 こども福祉課
TEL : 099-216-1260 (直通) FAX : 099-216-1284

子どもの相談に関する窓口

家庭児童相談室 (こども福祉課内)
TEL : 099-216-1262
